

おり、現在ワシントンとの間で2400 BPS の回線を使ってデジタル FAX の試験運用を実施中で近い将来この回線を使って FAX 図の交換が可能になることが期待される。

文 献

気象庁予報部通報課, 1972: 気象資料自動編集集中継装置, 技術報告

〃, 1974: 気象資料自動編集集中継業務説明書 (第2次計画)
(株)東芝, 1975: 東芝レビュー, 75-8, 694-697.
WMO, 1974: World Weather Watch, Seventh Status Report on Implementation. WMO-No. 401.
WMO, 1974: Manual on the Global Telecommunication System. WMO-No. 386.

中部支部総会と支部発足記念講演会の開催についての報告

去る8月8日中部支部では、昭和50年度支部総会と支部発足記念講演会を名古屋共済会館にて開催した。

会員の出席は40名を越え、行事は記念講演会、支部総会、懇親会の順に行われた。

記念講演会は理事長磯野謙治氏の「大気中の微粒子とそれの気象気候へ及ぼす影響について」と、小平信彦氏

の「気象衛星による遠隔測定」で感銘深いものがあった。

支部総会は事業計画案及び予算案の承認が主であったが、活発な支部活動を希望する若い会員の声も聞かれた。17時から懇親会に入った。我々の大先輩松平、須田両氏のご出席もあり和かに終わったことを報告します。



土屋 巖 著

地球は寒くなるか—小氷期と異常気象

講談社現代新書 400, 1975, 新書版, 206 頁, 370 円

科学・技術を駆使して地球上に君臨する人類も、その生物としての基盤の意外に弱いことを我々は1972年に始まる食糧危機で知った。この食糧危機をもたらしたのはソビエト・カナダ・インドなどに出現した異常な寒さまたは干魃であった。その後も気象の変動は止むことなく、人々は気象変化—食糧生産の変化—物価の変化にいや応なく注目させられている。

このような時機に、地球上の気候は果して寒くなりつつあるのか？ 過去の気候変動はどうなっているのか？ それをもたらす原因はなにか？ 本当に寒くなった時に人類は生き残れるか？ という素朴な質問に明快に答え

る本書が出版されたことは極めてチャンスを得たものである。アトラクティブな図と表を用いて、ここ数万年に地球上に出現した気候の変化が手際よく説明され、現在の寒冷化もその一環としてとらえられているが、それに人類の大規模な生産活動にもとづく環境破壊が関連している点という点は注目に価する。

寒冷化進向の暁における極めて困難な生存環境も、氷期を乗り越えて旧人から新人へと進化して来た人類にとっては克服可能で、人類の知恵と科学技術はそれを容易にするだろうという楽観論のべられている。私達もそうなるに欲しいと思うが、人口の重圧と科学技術・資源の偏在は新しい激烈な人種闘争をひき起こす可能性もある。

このような新しい人種進化過程(?)をひき起こすかも知れない気候変動に関して、体系的な情報(諸外国の資料が多いが)が提供されたことは、生物として、社会的存在としての我々の生活を考えるうえに非常に有益である。食糧自給率40%台という危険な台所をもつ日本人にとっては特にそうである。

(内嶋善兵衛)